

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追究した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

ここでは、宮崎県を代表するこれらの作家の作品を紹介するとともに、県内の各地域や表現の違い等にスポットを当てたコーナー展示も行います。

本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	塩月 桃甫	1886～1954	猫	1946-54(昭和21-29)	27.5×39.8	水彩
2	塩月 桃甫	1886～1954	鯉	不明	38.5×48.8	水彩
3	塩月 桃甫	1886～1954	舞子	1949(昭和24)	33.3×24.0	油彩
4	塩月 桃甫	1886～1954	少女	1953(昭和28)	73.0×60.6	油彩
5	山田 新一	1899～1991	卓に凭るリューシャ	1927(昭和2)	89.2×90.0	油彩
6	山田 新一	1899～1991	風景	1962(昭和37)	60.7×72.7	油彩
7	川越 彌録	1917～不明	葉っぱと子供	1953(昭和28)	75.2×56.2	水彩
8	川辺 忠光	1935～	赤い柿の実A	1964(昭和39)	54.3×77.7	水彩, コラージュ
9	山内 多門	1878～1932	驟雨之図	1907(明治40)	174.6×101.6	水墨
10	山内 多門	1878～1932	水辺青柳	不明	127.2×51.0	日本画
11	山内 多門	1878～1932	菅公詠詩之図	1902(明治35)	129.9×55.2	日本画
12	益田 玉城	1881～1955	美人立姿	不明	125.3×41.8	日本画
13	益田 玉城	1881～1955	千石三景	1939(昭和14)	右軸131.5×23.0 中軸131.8×23.0 左軸131.8×23.0	日本画
14	岡部 南圃	1807～1873	月夜水禽	不明	123.5×46.6	日本画
15	佐藤 竹臯	1819～1882	蓮の華	不明	139.5×69.5	水墨
16	佐藤 小臯	1860～1928	花鳥	不明	135.8×42.2	日本画
17	鈴木 月谷	1835～1907	山水図	1882(明治15)	133.0×50.0	日本画
18	黒木 貞雄	1908～1984	雨の坪谷川	1973(昭和48)	27.8×38.1	木版
19	河野 扶	1913～2002	ある風景	1996(平成8)	60.5×50.1	油彩
20	渡辺 謙二郎	1900～1943	岡の家	不明	31.9×40.9	油彩
21	渡辺 小五郎	1911～1941	やすんだ女	1940(昭和15)	33.4×52.4×21.6	彫刻